８　「総合的な学習の時間」と「道徳の時間」との関連

（１）　「総合的な学習の時間」の目標

今回の改訂では，総合的な学習の時間の目標が新たに設定されている。総合的な学習の時間では，横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して学び方やものの考え方を身につけることを目指している。そして，自己の生き方を考えることができるようにすることも目標の一つである。この「自己の生き方を考える」ことには，次の３つが含まれる。

①人や社会，自然とのかかわりにおいて，自らの生活や行動について考えていくこと

②自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくこと

③学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えること

これらの３つのことは，総合的な学習の時間だけでなく全ての教育活動で培われる力である。

（２）　「道徳の時間」の目標

道徳の時間においては，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって補充，深化，統合し，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め，道徳的実践力を育成するものとする。

（小学校学習指導要領　第３章　「道徳」の「第１　目標」　後段）

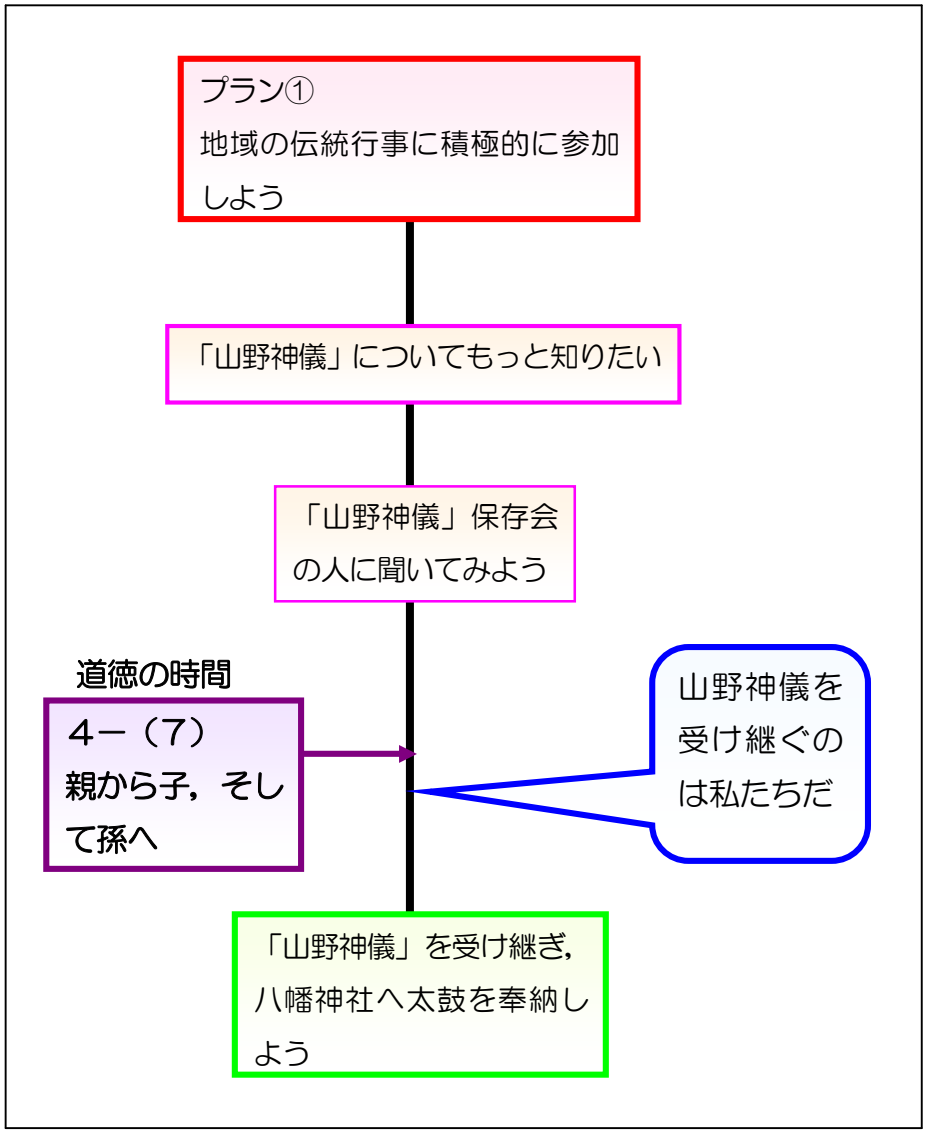
（３）　「総合的な学習の時間」と「道徳の時間」の関連

児童が総合的な学習の時間の中で体験したり学んだりするとき，児童が獲得したものは主体的・個別的であり，それらのもつ道徳的価値が自覚されていない場合が多い。

したがって，「体験」を通して学んだ後に，じっくり思い起こし意味づけをする「思考」の場面が必要である。この「思考」に相当する場面で「内省・熟考・反映」させるのである。この時間が道徳の時間である。体験を通して学んだことの整理をし，道徳的価値の自覚を促す道徳の時間を総合的な学習と関連付けることで，児童の体験や学習がより豊かになり，生きた力となって児童のこれからの生き方へとつながるものと考える。

本校では，総合的な学習の時間の目標を，「自分と地域の歴史，伝統・文化，地域の人々や自称とのかかわりについて探求することを通して，総合的に追究する方法を身につけ，そこにある問題を主体的に見出し，仲間と協力して問題を解決するとともに，地域と地域に生きる人々に対し，尊敬する心と誇りをもち，自分と地域のこれからについて考え，よりよい生活を創りだそうとする」としている。そのため，地域と自分とのかかわりを見つめることのできる単元を３・４年，５・６年で設定している。また，地域の伝統行事へ積極的に参加することを通して体験した思いや学びを思い起こし，その中にある道徳的価値に気づかせ，自分の生き方を豊かにしていけるよう，道徳の時間を計画的に総合的な時間と関連させている。

（４）　実践例（山野元気ＵＰプランⅡ　高学年　単元構想図より一部抜粋）



高学年では，「山野の未来を創ろう」という単元名で，山野を元気にするための「山野元気ＵＰプランⅡ」に取り組んでいる。

その中のプラン①では，地域の伝統文化である「山野神儀（やまのじんぎ）」を学習素材として取り上げた。児童は，毎年「山野神儀」を秋祭りで八幡神社に奉納してきたが，その歴史や，山野神儀を守ってこられた地域の方の思いを十分理解して，奉納してきたわけではない。

そこで１学期，山野神儀保存会の方から「山野神儀」の歴史や保存会の取り組みについて聞き取る学習をした。そのことにより，児童は，「山野神儀は地域の大切な伝統だ」という思いをもった。さらに，自分たちの手で郷土の伝統や文化を受け継ごうとする態度を育てたいと考え，10 月に**「親から子，そして孫へ」４－（７）**を位置づけ道徳の時間との関連を図った。授業後児童は，「地域の方々も，『山野神儀』を大切に伝えてきてくれた。」「山野神儀はぼく達が，ぼく達の子どもへも伝えていかなければならない。」などの思いをもち，道徳ノートへ記述している。これらの学習の後，児童は「山野神儀」を受け継ぐ意義や地域の方々の願いを受け止めながら，練習に励むようになった。そうして，地域行事である，「秋祭り」や「ふるさと祭り」では，地域における自分たちの役割を自覚し，精一杯口唱和（くちしょうわ）をしながら力強く太鼓を打つ姿が見られた。

総合的な学習の時間の体験活動と道徳の時間との関連を図ることにより，児童は，地域の一員として，地域に残る伝統・文化を守り受け継ごうとする心が育った。こうした学びを積み上げることにより，児童は，地域とつながる自分と，これからの自分の生き方を考え，行動する力が育つと考える。